

私市円山古墳

私市円山古墳は、5 世紀半ばに造られた 3 層構造の大きな丸い古墳です。直径 70 メートルの円と、木棺や副葬品などが埋められていた 10 メートルの小山で構成される日本最大クラスの円墳となっています。現在、この私市円山古墳は公園になっています。

私市円山古墳の発掘調査で、かつて由良川付近で栄えた古代の農耕文明の支配者の物とされる 2 つの墓が明らかになりました。彼らの遺体と木棺は朽ちていましたが、鎧、剣、鏡、数珠、農具、その他の副葬品が墓から発見されました。そして最も注目すべきは、当時非常に貴重だったはずの金ばくを張った、胡ろく（ベルト付きの矢入れ）が見つかったことです。古墳から出土された内容と、古墳の規模と位置のために埋葬された 2 人の支配者（おそらくは親と子、または兄弟）の関係については現在も謎が残っていますが、研究グループは、この 2 人は他の地域との貿易を行う強い権力を持った支配者であったのではと考えています。

長年忘れられていた私市円山古墳は、1987 年に舞鶴若狭自動車の工事中に発見されました。その後発掘調査が行われ、古墳は可能な限り元の状態に復元されました。山の頂に約 6 万個の「葺石」が敷き詰められ、3 段式の墳丘と入り口には土を焼いて作った円筒の「埴輪」が 1,000 個並んでいたのです。綾部市資料館では、この古墳から出土された貴重な史料を見ることができます。